落書きとおかしな顔たち

3枚の大きなパネルの上に、色鮮やかに、めいっぱい描かれた落書き。バスキアは、自分の世界を気の向くままに表現しました。
いろいろな形と消された線の中に、漫画のスーパーヒーローらしき人物が出現。さらに文字がてんこ盛り。歯が抜けて笑ったり叫んだりしてるような、おかしな顔たち。
殴り書きのような言葉は、まるで秘密の暗号のようですが、なぜか赤い文字だけは、エジプトの王と鷹の守護女神の名前が記されています。一体どんな意味があるのでしょう。

■探してみましょう

- 黒い線で描かれた三角形 8つ
- 13個の黄色い目
- 緑の四角 5つ
- Bの文字 2つ
- 2つのいなずま模様
- 赤いSの文字 2つ
- 口の中にいる顔
- 矢印
- 緑の鼻

■このディテールも探してみて

ジャン・ミシェル・バスキア　Mitchell Crew　1983年　アメリカ

恐ろしい太陽神

これは、「太陽の石」という太陽暦（アスティックカレンダー）です。メキシコの先住民アステカ人が使っていました。

その昔、アステカ人は1ヶ月を20日で区切り、1年を18ヶ月として数えていました。そして、その年の最後の5日間だけ「ワイエブ」という月を設け、1年を365日としていたのです。

このワイエブという月は、とても不吉だと信じられていました。「神の怒り」を買わないように、人々は恐怖に震えながらずっと家に閉じこもって過ごしたそうです。

また、この絵の太陽神トナティウをはじめ、おおくの神々は「恐ろしいもの」とされていました。トナティウの口からはみでた短剣のように鋭い舌は人間の生き血を求めたとされ、人々はつねに太陽が昇るように、日々生け贄の血を捧げていたそうです。

この中には描かれていないディテールがあります。それはどれだかわかりますか？

アスティックカレンダーの復元　メキシコ

学者の集団

ルネサンス期には、古代ギリシャ・ローマの人々をモチーフにすることが流行りました。ラファエロは、この巨大なフレスコ画に古代ギリシャの哲学者と科学者を描きました。
さて、問題です。ヒントをたよりに、誰がどこにいるか探してみましょう。
数学者のピタゴラスは、画面左の方で、たいそう難しい定理を書きだしています。その前方で、だらんとした格好で座ってるのは哲学者のディオゲネス。右側で地球儀を持ってこちらに背を向けているのは、天文学者で地理学者のプトレマイオス。すぐ側にいる黒い帽子の男は、この絵を描いた本人、画家のラファエロです。

■探してみましょう

葉の冠を頭に載せている男
書き物をしている 6 人の男
球を手に持つ 2 人の男
兵隊
天をさした指
竪琴
杖を持つ男
子ども 2 人
彫像 4 体

■このディテールも探してみて